

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 鳴門市堀江北小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	児童（1年～6年）150名 保護者・地域 5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 4年 総合的な学習 ） ② 行事名（ 1～6年 人権教育講演会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	4年：社会には障がい者が生活する上で、障壁となるものに気づき、障がい者が安心して生活できる環境づくりについて考え、自分にできることを実践する。 1～6年：パラスポーツの体験活動や、パラアスリートの講演を通して、障がい者問題について理解を深めるとともに、自分にできることを考える。
5 取組内容	事前学習 4年：アイマスク体験・車いす体験・点字学習・盲導犬学習を通して障がい者について理解を深めた後、パラアスリートの招待をテーマに環境や心の障壁について考えた。研究授業公開も行い、4年児童の取り組みを全教職員で共有した。 1～6年：講師の上原大祐さんのことやパラスポーツについて教師から話を聞いたり、知っていることを話し合ったりする時間を設けた。 当日 4年：講師の上原大祐さんを出迎え、階段の移動、段差の解消、障害物の撤去、歓迎の挨拶をしたり、交流をしたりする時間をもった。見送りも、4年児童が代表して行った。 1～6年：パラリンピックやメダルについてお話をうかがい、6学年児童が2チームに分かれて車いすバスケットボールを体験し、他の学年もチームを決めて応援した。4～6年はその後、上原さんの講演をお聞きした。また保護者や地域の方も参観した。



4年生が学習を生かして上原さんをご案内しました。



6年生は、車いすバスケットボールを体験しました。



他の学年はお話を聴き、応援することの大切さを学びました。

事後学習

全学年：学習の感想を交流し合い、発達段階に応じて感想文や上原さんへのお手紙にまとめ、お送りした。

保護者・地域の方：学年だより、学校だよりで交流の内容や児童の感想についてお知らせした。

6 主な成果

4学年が学習を始める前には、町で見かけた障がい者に対して、「かわいそう」等マイナスの感情をもっている児童も見られたが、事前学習で体験を積み重ねていくうちに「尊敬する」「幸せそう」という感情へと変わっていった。また、自分たちが上原さんをお迎えする役割を担うことで、身の回りの環境を見直し、具体的に自分のこととして捉えられるようになった。上原さんのことを考えて環境の工夫をし、それを喜んでもらったことに児童は感激し、もっと知りたい、もっと取り組みたいという自己有用感の高まりが見られた。

他の学年の児童も、6月に出会ったパラアスリートに続き、二度目のパラアスリートとの出会いに、大変喜んでいった。パラスポーツに対する理解を深め、自分たちが工夫をすることで障がいのある友達とも楽しく遊んだり、一緒にスポーツができたりすることを知った。また、チャレンジ精神や応援の大切さに気づいた児童も多く見られた。

保護者・地域の方からは「きっと子どもたちの心の中に生きて、おおきくなるでしょう」「参加して本当によかった。挑戦する気持ちを持ち続けたい」という感想をいただいた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	本校ではスクールワイドPBSに取り組んでおり、目標とする項目に「自分を高めよう」「友達を大切にしよう」という2つがある。パラアスリートとの出会いは、2つの目標と重なると考えて取り組んだ。上原さんからお聞きした「失敗を恐れずチャレンジする」「スポーツが苦手な友達がいっても工夫次第でみんなのできる」というお話は、スクールワイドPBSの視点からも学校ぐるみで取り組めることであり、児童の心に印象深く残った。
8主な課題等	どのような内容の体験活動を行うか、準備物や安全面の配慮等について、間際になって講師の先生に連絡をとっていただき、迷惑をかけたと思う。学校のニーズ、対象児童、準備物等について講師が決定した早い段階で、担当の方と打合せを行うとよかったと反省している。
9来年度以降の実施予定	今年度いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催される。児童はパラリンピックを見るときに、本事業によって体験し、気づき、学んだことを想起するだろう。講師の上原さんから学び、自分がそのときに感じた感想は人権ファイルに綴り、読み返し、振り返りながら学習に生かしていきたい。特に、今年度総合的な学習単元として取り組んだ4年生児童は高学年となるので、本事業から学んだことを実践していくとともに、学びを次の学年へと引き継いでいく。本事業のことを基盤に置きながら、多様性を認め合い、主体的に行動する力をもった児童を育成していきたい。